**幼児礼拝6月①**

**「おやこうこう」をしよう**

みんなは、「親孝行」ということばは知っているかな？ 親孝行というのは、お父さんとお母さんをいっぱい喜ばせることです。みんなは、いつもお父さんやお母さんを大切にしていますか？ 「嫌だー！」と言って、困らせたりしていないかな。

きょうは、韓国でとっても有名な、親孝行と言えばこのお話！ という、「沈清伝」というお話をします。

・・・

あるところに沈清という心のきれいな女の子がいました。沈清のお母さんは沈清を生んですぐに死んでしまいました。なので沈清はお父さんと二人暮らしです。そして、お父さんは目が見えなかったのです。

ある日、有名なお坊さんが、目の見えないお父さんに「お寺にお米を300石ささげれば目が見えるようになりますよ。」と言いました。沈清はそのことを、隣に住むおばさんから、お父さんに内緒でこっそり聞いてしまったのです。

沈清は「なんとか、お父さんの目が見える様にしてあげたい！」と強く思いました。

でも、沈清のお家は貧乏なので300石のお米なんてありません。沈清はどうしたらいいかずっと悩んでいました。

そんなある時、商人たちが町に来て「船が海の事故にあわないように、海の神様のお供え物になってくれる娘はいないか。いたら何でもお礼をあげるぞ！」と大声で叫んでいるではありませんか。

その時代、船が嵐などで沈まないように、若い娘が海に飛び込んで命をささげて、海の事故が起きないようにするという言い伝えがあったのです。

沈清は「お米300石をもらえるなら私が供え物になります」といいました。

なんと、沈清お父さんには内緒で商人たちに約束してしまったのです。

約束はしたものの、沈清はとても悩みました。もちろん海に飛び込むことはとっても怖いです。

でもそれ以上に、大好きなお父さんが一人ぼっちになってしまうことが、心配で心配でたまらなかったのです。そして、お父さんと過ごす最後の夜になりました。いよいよ明日は海に飛び込む日です。沈清は、何も知らずに眠るお父さんのそばで、朝まで眠らずに、手を握っていました。

朝、お別れの時、沈清は、お父さんに「長生きしてください、そして、私を許してください」と最後の挨拶をしました。その言葉で、お父さんは、沈清が自分のもとからいなくなることを悟りました。お父さんは、沈清を必死に止めましたが、沈清はもう心に決めていました。商人と一緒に船に乗りみました。

船に乗ると嵐が来ました。沈清はお父さんの目が見えるようになる事を願って海にとびこみました。「아버지 사랑해요！(お父さん、愛しています！)」

その時、奇跡が起きました。お父さんを思う沈清の優しい心に感動した神様が海の王様の竜王に、「沈清」を助けなさい、と命令をしたのです。

竜王に助けられた沈清は海にある龍宮で、お姫様のような日々を過ごすことになりました。

でも、沈清は、どんなに美しい景色を見ても、おいしい食事を食べても、お父さんのことを忘れることができません。沈清は竜王に地上に戻りたいと言うと、竜王は沈清を大きい蓮の花に包み、海の上に帰してくれました。

沈清の入ったおおきな蓮はそのまま、浜辺に打ち上げられました。

大きな蓮を商人たちが見つけ、珍しいものを見つけたと言って、王様のところに持っていきました。

王様の前で、蓮の花が開きます。するとその中から、沈清が出てきました。驚いた王様は沈清に、なぜ蓮の中にいたのか、理由を聞きました。沈清はいままでの話しを全て王様にしたところ、その話に感動した王様は、沈清と結婚し、沈清はおきさき様になりました。

そして王様は、沈清のお父さんを捜すために全国の目の見えない人を招いて宴会を開きます。そこに沈清のお父さんもやってきたのです。そこでお父さんと沈清は、泣きながら抱き合いました。

「お父さん、かってにいなくなってごめんなさい。でもこうやってもう一度会えて、本当によかったです」

お父さんは言いました。「お前が無事に帰ってきて何よりだ。たとえ目が見えなくても、お前と一緒にいっしょに入れることがお父さんの喜びだ」

そのときに奇跡が起きました！

なんと、お父さんの目が開いたのです。お父さんだけではありません。その場にいた、目の見えない、全ての人が見えるようになったのです！

きっと、沈清の親を思う心、そして沈清を愛するお父さんの心に

神様が感動して、奇跡をおこしたに違いありません。その後、沈清とお父さんは、幸せに暮らしました。

・・・

この沈清のすごい所は、お父さんに言われなくても、自分でお父さんの為に何ができるかを考えるほど、親孝行だったことです。

皆さんは、おうちでお手伝いはしているかな？

それは、「手伝って」と、言われたからやっているのかな、それとも、自分でできることを自分から探してやっているのかな？

「手伝って」と言われてやっている人！(手を挙げさせる)

自分で「お父さんとお母さんを喜ばせたい！」と思って、できることを探して手伝っている人！ (手を挙げさせる)

本当の親孝行は、言われなくても、お父さんとお母さんの願っていることが何だろうかと考えて、自分にできることを一生懸命にやることです。

真の父母様も、「神様を喜ばせたい！」と思って、一生懸命に生きてこられました。

なので、皆さんも、天の父母様や真の父母様、みんなのお父さんとお母さんがどういう願いがあるのかを自分で考えて、自分にできることを一生懸命に頑張る人になりましょう！